

今年の山神社祭り(5月15日)は多忙!!

～「歴史資料館」地鎮祭も執行～



蔵王通信
硫黄

第11号
発行
NPO法人 蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会
山形県上山市蔵王字蔵王山 2843-1
発行責任者 川口 兼次
TEL.023-679-2211 FAX.679-2606
編集責任者 高橋 正之
山形県上山市金谷 530 TEL.023-679-2435

印刷所
有限会社 東洋企画印刷
山形県上山市四谷 2-1-46
TEL.023-673-1648 FAX.673-1646

地鎮祭が執行されます。8月頃には上棟式、9月末には資料館(体育館の部分)完成、ということになります。以上の計画に沿って工事が進捗すれば、資料館建設事業は、今秋には開

たその作業と併行し、院内鉱山を視察し展示方法などを研修することになっています。会員の皆様には、鉱山ゆかりのお宝(展示物)を沢山提供していただきますようお願い申し上げます。



蔵王鉱山資料館ジオラマ



3月27日役員会の現況

蔵王通信「硫黄」《本誌》等を永久保存へ

当法人では、これまで会員向け通信紙等を数多く発行してきましたが、こうした貴重な史料を後世まで永久保存しようと考え、上山市図書館に寄贈することにしました。

平成31年3月、これまで発行された「蔵王通信・山神社会報」「蔵王通信・硫黄」の収集が完了したので、フォルダーに収納し、また閉山50周年記念写真集「硫黄」とともに寄贈しました。同史料は、図書館内「郷土資料」コーナーに展示されていますので、図書館に赴いた際は是非ご覧ください。



「氏子通信」の復活版をスタートさせます

同封したハガキで近況をお知らせください

本NPO法人「蔵王鉱山の歴史を語り継ぐ会」が法人化する以前、当会は蔵王鉱山・山神社氏子会として活動し、会報「蔵王鉱山・山神社会報」を発行していました。手元にある平成20年7月発行の「会報」NO.13の記事を眺めていましたら、多くの会員の方々が近況を知らせる「たより」が掲載されており、中に

昔の仲間に「元気でしょか」と無事を確かめる記事がありました。この程、一部の連載記事に区切りがつかまりましたので、この「氏子通信」を「会員通信」に名称変更し、次号から掲載して行きたいと考えています。以上の経過から、今回、県外の会員の皆様に「会員通信」用ハガキを同封して送付しま

した。お受取りになった会員の皆様には、近況をしたためていただき、恐縮ですが、62円切手を貼付のうえ投函してください。送付を受けた記事は、次号以降順次掲載してまいります。ご協力の程、よろしくお願いたします。

(編集責任者 高橋 正之)

蔵王鉱山は誰のもの

その八 拓殖大学

前号の機関紙第10号で述べた通り、「意外な展開」となったニュー蔵王山荘の経営体制、竹割さんとのコンビで営業活動が行われた。

竹割さんの出身大学・拓殖大学。押忍(オス)「押忍(オス)、学生たちが立ち止って竹割さんに挨拶、体育館に行へ。」

「中山君はいないか?」

「竹割先輩! すく呼んでください」

中山君とは、日本空手協会首席師範であり、拓殖大学体育局長の職にある方だった。

営業(客引き)の話は、ほとんど拍子で進んだ。

「川口君、木村君は知っているだろう?」と紹介されたのが、力道山との死闘対決(昭和29年12月)で有名になった柔道の神様といわれた木村政彦師範その人であった。

竹割さんは、拓殖大学の学生時代、学生相撲の横綱として君臨し、母校拓大の理事として活躍、総長候補として信頼も厚かった。のちの総理大臣・中曽根康弘氏を拓殖大学総長に実現させた人でもある。

「中山先生! リフトが無いは残念だが、周囲に呑み屋が1軒も無いというのが気に入った、ということでは話ほとんど進んだ。

1年生50人、5泊6日。

「中山先生! リフトが無いは何本あるんですか?」

「川口! リフトは無いんです。ロープトウが1基。」

「中山先生! 周囲に呑み屋はあるのか?」

「川口! 鉱山の跡地なので何も無い。」

一番痛いところを突かれたようで、100%ダメだと覚悟した。

「中山先生! リフトが無いは残念だが、周囲に呑み屋が1軒も無いというのが気に入った、ということでは話ほとんど進んだ。

1年生50人、5泊6日。



2年生、3年生と決めていただき、延二千二百五十人の予約が確定した。

以来、拓殖大学の体育実技スキーシーズンコースは続き、春休みシーズンに入ると空手部、剣道部の合宿も行われ、ニュー蔵王山荘の経営を支えてくれた。

その竹割さんが昭和48年急逝された。拓殖大学と日東グループの合同別式が東京で執り行われた。私は、日東グループの従業員代表として弔辞を奉呈した。

離れと名づけた部屋は、池の上にあった旧社宅。薪ストーブに汲み取り、食事や風呂はその都度歩いて本館へ。リフトもレストランも無かったスキー場。今振り返ると鳥肌が立つ思い。素人だから出来た「荒くれ繁盛記」だったのかも知れない。

その拓殖大学空手部の皆さんが30年ぶりに4泊5日のスキー合宿に猿倉を選んでくれた。当時の津山先生とも再会し感無量だった。

竹割さん、中山先生ありがとう。

(かわべち)

